



2024年2月22日

CDPの「気候変動分野」で「Bスコア」を獲得

株式会社千葉興業銀行(頭取 梅田 仁司)は、環境分野の国際的な非政府組織であるCDPが実施した2023年度の気候変動に関する調査(CDP気候変動質問書)において、気候変動に対する取組みや情報開示が優れた企業として、日本企業の上位約3割にあたる「Bスコア」の評価を受けました。



CDPはロンドンに本部を置く非営利団体で、運用資産総額136兆米ドルを超える740以上の投資家と協力して、企業や自治体に対して情報開示を求め、温室効果ガスの排出削減、水資源の保護、森林の保護への対策を促しています。CDPの気候変動に関する調査は、気候変動に対する目標設定や事業戦略、リスク・機会の認識、温室効果ガスの排出量の開示などの観点で企業の取組みを8段階(A、A-、B、B-、C、C-、D、D-)で評価するものです。

当行は今回初めてCDPの気候変動に関する調査に回答し、「リスクに関する開示」や「ガバナンス体制」で高い評価をいただきました。

当行では、サステナビリティ重点項目(マテリアリティ)3に掲げる「安心して暮らせる豊かな千葉の実現」を掲げ、TCFDの枠組みなどを通して、気候変動がお客さまや当行に与える影響を把握し、情報開示を行っております。

当行は今後とも、当行の基本的価値観である企業理念「地域とともに お客さまのために『親切』の心で」の実践に向けて、気候変動を含む環境・社会的課題の解決に資する取組みを一層推進し、地域の経済・産業・社会の持続的な発展・繁栄に貢献してまいります。

CDPジャパン公式サイト：<https://japan.cdp.net/>

以上